

Mr. サトーのインド通信

ネクストチャイナ・・・

日本では彼岸もそろそろ冬支度といった今日この頃。いかがお過ごしでしょうか？

今月は何故かほとんど日本にいて丁場巡りをし、今現在は中国アモイにいる私です。中国アモイはまだまだ蒸し暑く、黒の原石などはカバーもしていないのでサンクラックが心配です。インドでは強い日差しによるひび割れを防ぐために、日陰に置いたり、大きい棕櫚（シュロ）の葉で覆ったりして保護しています。

最近はある普通のことのだと思ひ、なんとも思わなくなりましたが、改めて中国の大量生産の現場を見ていると、やはりインドの生産現場の温かみがわかります。



左写真はインドの弊社生産工場です。⇒

毎回出荷の際に亡くなられた方々のご冥福と、製品の破損無き無事を祈りプージャ（Pooja／お祈り）する姿は非常にいいものに思えます。さすがに仏教発祥の国です。

インドは本当に信心深く、丁場でも毎月、事務所でも毎月、何かを始める際には盛大にプージャを行うのが恒例です。こちらの方は祈りの意味も含みますが、懇親会的な食事会の色合いが強いように思います。

最近の活気がなくなった中国工場の様子をみて、日本ではネクストチャイナはベトナムということが言われていますが、建材では軌道に乗ってかなり出荷されていますが、墓石材は・・・正直まだまだ早いです。

少々昔に、ある会社さんがやって撤退。また最近、違う商社さんの発注があったそうですが出来は見るに堪えないもの。今月ぐらいから始めると言っていた工場・・・現在まだ基礎のみ。多分できたとしても、ベトナムの旧正月（テト）明けといったところでしょうか？ベトナム資本に頼っていてはかなり厳しいのが現実なようです。

現実的な流れとしては、ベトナム人の工員を何人か日本に呼んで修行させ、一定の程度のレベルになったところで日本の資本で工場を建ててやって管理させるという、昔からの流れが確実かと思ひます。ベトナム人の人柄の良さは、他の産業界が多く進出していることからもうかがい知れます。

しかし、石材製品のベトナム生産については人的資源が育つまでベトナムがそれほどの発展を遂げ

ないことが第一条件だと思います。石材の仕事は厳しい労働条件のものが多く、日本や中国がそうであったように、発展してしまうとベトナムでもなり手がなくなってしまうでしょう。他の産業がチャイナリスクを嫌い、東南アジア各地に展開している現状を見るとベトナムの発展も確実なものと思えます。

このことから、私の考えではベトナムはネクストチャイナにはなりえず、上手くいってもインドのように中国生産の補完的役割としての使用となると考えます。

しかし、石の素材の面から見ると面白いものもありますので、将来的には石塔はインドなどの原石をベトナムに入れて加工し、外柵等の下回りはベトナム産で揃えるなどすると、現実性が高いプランになりえる可能性もあると思います。

またミャンマーあたりもむこう曰く、今年の終わりぐらいには墓石が作れるぐらいの自国産原石が調達できるようになるとのことなので弊社ではそれもあわせて追跡調査していく所存であります。

ベトナム産の建材・環境材は弊社でも取引がありますので、ご要望の際は弊社担当まで！！

チェンナイ新空港



以前より国内線はこちらの新空港(旧空港隣)を使用していましたが、この度国際線出国時にも使用されるようになっていました。作りはインドの比較的新しい空港に共通のデザインできれいに作られています。以前の薄暗くて汚い感じはなくなっています。

インドの怖い監視体制 ⇒

石材の丁場にまでCCDカメラを導入して監視するようです。石材産業への締め付けがどんどん厳しくなっています。

